

FCV知り水素社会に関心を

小牧市の小牧工科高校で15日、自動車科の生徒28人が、環境にやさしく「究極のエコカー」とも呼ばれる水素で動く燃料電池車（FCV）について学ぶ講座があった。トヨタ自動車の水素自動車「MIRAI（ミライ）」も学校に運ばれ、トヨタ社員から車体構造を説明してもらうなどして、FCVへの理解を深めた。（伊藤純平）

トヨタ社員が解説



クラウンのカットモデルを使い、トヨタ社員から内部構造の説明を受ける生徒たち＝小牧市の小牧工科高で

小牧工科高と県が講座

講座は、同校と水素社会実現を目指す県が主催。初めに生徒2人が、事前に「MIRAI」を整備した時の体験を発表。実物の車体や水素タンクを見せながら、水素漏れしていないかの点検や車検場での手続きなどを説明した。

FCV仕様の「クラウン」の内部構造が分かるカットモデルを用いて、水素タンクや排気、排水の仕組みを解説した。

県水素社会実装推進課の担当者による県の取り組みの紹介があったほか、水素ステーションを設置、運営する位田モータースの位田幸司社長がステーション運営資格などを説明する講座もあった。

同課の担当者は「自動車産業の未来を担う若者が、モビリティ分野での水素に関心を持つきっかけになっているといい」と期待した。

中日新聞

発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

近郊版